

TOEI TRANSPORTATION

東京都交通局

経営計画

2019

「東京都交通局経営計画 2019」

令和2年度進捗状況



令和3年7月



すべての「今日」のために。

都営交通

「東京都交通局経営計画 2019」 令和 2 年度進捗状況

交通局では、平成 31（令和元）年度から令和 3 年度までの 3 か年を計画期間とする「東京都交通局経営計画 2019」を平成 31 年 1 月に策定しました。

東京の都市活動や都民生活を支える公共交通機関として、安全・安心の確保を最優先に、質の高いサービスを提供するとともに、まちづくりとの連携や観光振興、環境負荷の低減などを通じた東京の発展への貢献など、様々な取組を進めてきました。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、基幹収益である乗車料収入が大幅に減少したことを受け、財政収支目標については、電気事業のみの達成となりました。

こうした厳しい経営状況の中、本計画に掲げた事業について、安全の確保に最大限配慮しつつ、実施する規模や時期の見直しなどを行いながら、取組を進めました。

令和 2 年度の主な進捗状況については、以下のとおりです。

令和 2 年度の主な進捗状況

■安全・安心の確保

- ・ホーム上の安全対策の強化に向け、令和 5 年度までに全ての交通局管理駅へのホームドア整備を完了するため、準備工事等を進めました。
- ・浸水対策の強化について、駅の出入口の止水板設置工事等を実施するとともに、大規模水害時を想定した交通局版タイムラインの策定を行うなど、ハード・ソフト両面から取組を進めました。
- ・浅草線及び三田線について、地下鉄構造物の計画的な補修工事等の長寿命化工事を進めたほか、高架部の橋脚及び地下部の中柱の耐震補強を実施しました。

■質の高いサービスの提供

- ・三田線の輸送力増強、お客様の利便性向上に向けて、8 両編成の新型車両の試験等を開始するとともに、令和 4 年度からの運用開始に向け、ホームドア等の駅施設の改修を進めました。
- ・新たに乗換駅等にエレベーターを設置しバリアフリー化を進めるとともに、大江戸線環状部において駅トイレの洋式化を 9 か所で実施し、計画どおり、対象の約 9 割の整備を完了しました。
- ・今後東京を訪れる旅行者などに、より快適に地下鉄をご利用いただけるよう、A I を活用したロボットコンシェルジュを新橋駅と新宿西口駅に導入しました。

■東京の発展に貢献

- ・浅草線において、新型車両を 7 編成導入するとともに、泉岳寺駅の改良について、ホームの拡幅やコンコースの拡張、エレベーターの増設などに向け、準備工事を進めました。
- ・燃料電池バスを 32 両追加導入し、計 70 両運行するとともに、地下鉄の駅や車両、バス停留所の上屋や標識柱に L E D 照明を採用し、省エネルギー化を図るなど、環境負荷の低減に取り組みました。
- ・小さなお子様連れのお客様が安心して気兼ねなく電車をご利用いただけるよう、大江戸線で子育て応援スペースを設置した車両を 7 編成運行しました。

■経営基盤の強化

- ・局資産を有効活用して安定した収入を確保するため、大門庁舎（浜松町）等の利活用の推進に向けた取組を進めるとともに、駅構内における広告用デジタルサイネージの設置を拡大するなど広告事業を積極的に展開しました。

1. 安全・安心の確保

安全・安心を最優先し、災害に強く、事故のない都営交通を実現するため、全職員が一丸となって取組を進めました。

◆ 安全対策の強化

(1) 安全管理の持続的向上

- 災害等の異常事態に対する即応力の維持・向上のため、情報伝達訓練等を引き続き実施しました。
- 都営地下鉄においては、東京メトロと駅構内でのテロを想定した合同訓練を実施したほか、運転シミュレータを活用した研修を実施しました。
- 都営バスにおいては、更なる安全性の向上のため、左折時警報装置やソナーセンサー*¹の導入拡大など、車両の装備の改善を図るとともに、全車に設置したドライブレコーダーや運転訓練車*²、教習兼用車*³を活用した的確な指導を行いました。



東京メトロとの合同訓練の様子

- *1 音波によってバスの前後にある障害物の接近を検知し、音や表示で運転手に知らせる装置
- *2 運転手の視線、車内の揺れ、前方や側方の距離などを計測する様々なセンサーやカメラを搭載したバス車両
- *3 営業用の車両を研修用にも兼用できるよう補助ブレーキを追加したバス車両

(2) ホーム事故「0」を目指した取組

- 浅草線のホームドアについて、令和5年度までに全ての当局管理駅の整備完了に向け、設置順序を定めるとともに、自動音声案内装置の設置等、工事中の安全対策についても検討を進めました。
- 浅草線押上駅については、駅を共同で管理する京成電鉄株式会社とホームドア整備に向けた検討を進め、令和5年度までに交通局全駅への整備完了を目指し取り組んでいます。
- お客様が乗降時にホームと車両のすき間に転落することを防止するため、可動ステップの試行結果を踏まえ、設置箇所を検討を進めました。



浅草線ホームドア

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕浅草線へのホームドア整備				
計画	準備工事	先行4駅整備完了 (東京2020大会まで)	ホームドア製作等	令和5年度までに 交通局全駅への整備完了
実績	(先行4駅) 整備完了	—		
	(全駅整備) 仕様検討・発注	準備工事		

◆ 災害対策等の強化

(3) 首都直下地震への備え

- 東日本大震災を踏まえ、施設等の安全性をより一層高めるとともに、早期の運行再開を図るため、更なる耐震対策として、高架部の橋脚及び地下部の中柱の補強を順次進めました。
- 地震発生時等の閉じ込めの際においても最寄階に着床するリスタート機能付エレベーターへの更新について、4駅を更新しましたが、対象箇所の更新完了予定は令和3年度としました。

(年次計画) -----

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄の早期運行再開を図るための耐震対策				
計画	順次実施	→	約5割完了	阪神・淡路大震災を踏まえた国の通達に基づく耐震対策は実施済
実績	順次実施	→		
〔2〕リスタート機能付エレベーターへの更新（地下鉄駅）				
計画	12駅	4駅 (全対象完了)	—	
実績	10駅	4駅		

(4) 地下鉄の浸水対策の強化

- 順次公表されている新たな浸水想定区域図を踏まえ、関係する地下鉄駅出入口における止水板の高さの見直しや、止水板から防水扉への変更など、引き続き必要な追加対策の検討及び駅の出入口の止水板設置工事等を進めました。また、大規模水害時の早期復旧に向け、より実効性の高い対策について検討を進めました。
- 迅速な避難の実現に向けた取組として、お客様及び職員の避難を適時適切に実施するため、大規模水害時を想定した交通局版タイムラインを策定するとともに、国や東京都による「首都圏大規模水害からの広域避難検討会」に参加するなど、防災関係機関と連携した取組を進めました。

(5) テロ対策の強化

- 地下鉄の車両更新等にあわせて、車内防犯カメラの設置を進めました。
- 駅構内への防犯カメラについて、大会最寄駅等重点整備箇所への整備は完了していますが、その他の箇所の増設は、当初計画を見直しました。
- 映像を解析することで不審物の置き去り等を検知する新技術を活用したカメラについて、導入に向けた準備を進めました。
- 関係機関と連携し、サイバーセキュリティ対策やテロ対策訓練を実施するなど、更なるテロ対策の強化に努めました。



車両内防犯カメラ

(年次計画) -----

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄における防犯カメラの増設				
計画	重点整備箇所への設置完了	その他の箇所に順次増設	→	
実績	重点整備箇所への整備完了	—		事業計画の見直しにより増設を見合わせ
〔2〕地下鉄車内への防犯カメラの導入				
計画	順次導入	→	→	
実績	順次導入	→		

※（6）非常時における電源の確保については、令和元年度に完了

◆ 安定的な輸送を支える基盤整備

（7）施設等の適切な維持管理と計画的な更新

- 浅草線及び三田線について、地下鉄構造物の計画的な補修工事等、長寿命化工事を進めました。
- 大江戸線浜松町変電所（仮称）の新設について、令和6年度の竣工に向けて変電設備の実施設計を完了しました。
- 大江戸線の信号保安装置について、運転効率や乗り心地を一層向上できるように、無線式列車制御システム（C B T C）*を導入するため、仕様の詳細検討を行うとともに、安全性の検証に着手しました。



トンネル補修工事の様子

*無線を利用して地上と車上との間で通信を行い、列車の運行と制御を行う信号保安技術

(年次計画) -----

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄構造物の長寿命化				
計画	順次実施	→	→	
実績	(止水対策) 浅草線・三田線完了	—		
	(長寿命化工事) 浅草線・三田線	(長寿命化工事) 浅草線・三田線		
〔2〕大江戸線浜松町変電所（仮称）の新設				
計画	実施設計	→	工事着手	令和6年度竣工（予定）
実績	実施設計	→		

◆ 安定的な電力供給を支える基盤整備

(8) 安定的な電力供給を支える基盤整備

- 多摩川第三発電所の大規模更新に向けた更新計画を策定するとともに、今後の経営の方向性について、これまでに実施した民間事業者への予備的対話等を踏まえ、検討の深度化を図りました。



多摩川第三発電所

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕 発電所施設の大規模更新計画の策定				
計画	(多摩川第三発電所) 大規模更新に向けた 詳細調査	更新計画策定	→	
実績	(多摩川第三発電所) 大規模更新に向けた 詳細調査	更新計画策定		

2. 質の高いサービスの提供

お客様が求める質の高いサービスを提供し、快適で利用しやすい都営交通を実現するため、取組を進めました。

◆ 輸送需要への的確な対応

(9) 輸送力の増強とダイヤの見直し

- 三田線について、8両編成の新型車両の試験等を開始するとともに、ホームドアの更新工事を順次実施しました。また、国が定めた火災対策基準に基づく駅施設の改良工事を進めました。
- 都営バスにおいて、地域の需要の変化や開発状況に応じ、路線・ダイヤを見直すとともに、新たに開設した有明自動車営業所に一部路線を移管しました。
- 日暮里・舎人ライナーにおいて、混雑緩和や利便性の向上を図るため、令和4年度から順次更新する車両の全ての座席のロングシート化に向けて、設計準備等を進めました。
- 混雑情報提供の充実を図るため、都営交通公式アプリを活用し、都営地下鉄全線における平日全列車の車両別・混雑予測情報を新たに提供しました。



三田線新型車両

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕 新宿線車両の10両編成化				
計画	—	—	4編成	全編成10両化 (令和4年度)
実績	—	—		
〔2〕 日暮里・舎人ライナーの車両増備				
計画	2編成増備	—	—	
実績	2編成増備	—		

◆ 便利で快適な移動空間の創出

(10) 駅空間の質的向上

- より快適な駅空間を創出し、お客様の利便性を向上するため、大江戸線勝どき駅及び三田線日比谷駅の大規模改良工事を完了しました。なお、ベンチのリニューアルについては、今年度の実施を見送りました。
- 乗換駅等でのエレベーター整備について、三田線春日駅や新宿線森下駅など6駅に増設しました。

- 駅トイレについて、出入口の段差解消、ベビーチェア・ベビーシートの増設、パウダーコーナーの設置などグレードアップを実施したほか、洋式トイレへの改修については約 9 割の整備を完了しました。



三田線春日駅エレベーター

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕乗換駅等でのエレベーター整備				
計画	順次増設	→	→	計9駅完了
実績	2駅完了	6駅完了		
〔2〕トイレの改修				
計画	(洋式化) 順次整備	約9割	整備完了	大規模改良予定駅を除く
	(温水洗浄便座) 順次整備	→	→	計64か所完了
	(グレードアップ) 順次整備	→	→	計19か所完了
実績	(洋式化) 9か所完了	9か所完了 (約9割)		
	(温水洗浄便座) 21か所完了	7か所完了		
	(グレードアップ) 6か所完了	3か所完了		
〔3〕ベンチのリニューアル				
計画	浅草線	三田線	新宿線	
実績	浅草線3駅	—		事業計画の見直しにより実施を見合わせ

(11) 人にやさしい地下鉄車両の導入

- 浅草線や大江戸線の車両更新に際し、各車両へのフリースペースの設置、低い吊り手・荷棚の採用、優先席への縦手すりの追加、多言語対応の車内液晶モニターによる分かりやすい案内表示など、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた「人にやさしい車両」を導入しました。



大江戸線車両 (左: 外観 右: 車内)

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄の車両更新				
計画	(浅草線) 7編成	7編成	5編成 (全27編成更新完了)	
	(三田線) —	—	9編成	
	(新宿線) —	—	4編成	(9) - 〔1〕の再掲
	(大江戸線) 4編成	4編成	4編成	
実績	(浅草線) 7編成	7編成		
	(三田線) —	新型車両の試験等を開始		
	(新宿線) —	—		
	(大江戸線) 4編成	4編成		

(12) バス停留所の快適性向上

- バス停留所の快適性向上に向け、一部整備規模を計画から見直しつつ、上屋・ベンチの整備や、ターミナル等への案内用デジタルサイネージの設置を進めました。



バス停留所上屋 (江戸川臨海郵便局前)

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕バス停留所上屋・ベンチの整備				
計画	(上屋の整備) 新設：50棟 建替：22棟	新設：50棟 建替：20棟	新設：45棟 建替：20棟	
	(うち広告付上屋) 20棟	20棟	20棟	上記バス停留所上屋の内数
	(ベンチの整備) 77基	75基	66基	新設・更新を含む
実績 ※	(上屋の整備) 新設：29棟 建替：35棟	新設：14棟 建替：28棟		事業計画の見直しにより一部整備を見合わせ
	(うち広告付上屋) 56棟	23棟		
	(ベンチの整備) 77基	57基		事業計画の見直しにより一部整備を見合わせ
〔2〕バスターミナル等への案内用デジタルサイネージの設置				
計画	2か所	2か所	2か所	
実績	3か所	1か所		事業計画の見直しにより一部設置を見合わせ

※実績については、PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）事業者施工分を含む。

◆ 新たなバスモデルの展開

(13) 新たなバスモデルの展開

- 系統番号の漢字部分にアルファベットを併記した系統ナンバリングについて、令和元年度の試行導入の検証結果を踏まえ、導入を4系統に拡大するとともに、表示の仕方を改善しました。



アルファベットを併記した系統ナンバリング

◆ 公共交通ネットワークの利便性向上

(14) 公共交通ネットワークの利便性向上

- 改札通過情報メール配信サービス「まもレール」の見守り対象を子どもに加え、シニアと障害をお持ちの方にも拡大しました。
- 東京都心部における大都市型 MaaS の取組みの一環として、両社局の駅構内地図データを活用した駅構内ナビゲーション機能を東京メトロと共同で提供しました。

(年次計画) -----

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕改札通過情報メール配信サービス				
計画	検討・導入	—	—	
実績	検討・導入	対象を拡大		令和2年4月1日サービス開始

◆ 旅行者にも利用しやすい環境の整備

(15) 案内サインや情報提供の充実

- 都営地下鉄において、東京2020大会関連重点駅の案内サインの改修を完了しました。
- 都営バス車両の行先表示について、乗りたいバスを色でもわかるようにするため、フルカラー行先表示器を車両更新にあわせて、順次導入しました。
- お客様に鉄道をより便利で快適に楽しくご利用いただくことを目指し、都営交通公式アプリと11社の鉄道公式アプリとの連携を令和2年7月に開始しました。



都営交通公式アプリ

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄駅の案内サインの改修				
計画	東京 2020 大会関連 重点駅完了	順次改修	→	令和 4 年度までに 全駅完了
実績	東京 2020 大会関連 重点駅完了 (大規模改良駅を除く)	東京 2020 大会関連 重点駅完了		
〔2〕都営交通公式アプリの導入				
計画	開発・運用開始	順次機能向上	→	
実績	開発・運用開始	他社とのアプリ連携 開始 車両別混雑予測情報の 提供開始		

(16) (17) 旅行者の視点に立ったサービスの充実・おもてなしの心によるサービスの提供

- 次世代券売機を新橋駅と新宿西口駅に各 1 台導入しました。(ツーリストインフォメーション内)
- 駅構内に、海外で発行したキャッシュカードやクレジットカードでも利用できる A T M や大型コインロッカーを増設しました。
- 外国人のお客様へ円滑な案内ができるよう、英会話研修等を実施し、職員の対応力の向上を図りました。
- 旅行者向けの企画乗車券の販売や観光情報の提供等を行うツーリストインフォメーションセンターについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、開設時期を令和 3 年 7 月に延期しました。
- 今後東京を訪れる旅行者などに、より快適に地下鉄をご利用いただけるよう、A I を活用したロボットコンシェルジュを新橋駅と新宿西口駅に導入しました。

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕次世代券売機(旅行者向け券売機)の導入				
計画	14 台	—	—	
実績	14 台	2 台		
〔2〕コンシェルジュ(駅案内係)の配置拡大				
計画	—	1 駅拡大 (累計 30 駅)	—	
実績	—	30 駅 (現在は 28 駅に縮減)		
〔3〕ツーリストインフォメーションセンターの設置				
計画	2 か所設置	—	—	
実績	—	—		令和 3 年 7 月設置

(18) 海外を含めた多角的な広報の展開

- 英語版のホームページについて、外国人の視点を踏まえ、乗り方や乗車券の購入方法を動画で説明するなど、よりわかりやすいホームページへと改修しました。
- S N S 等を活用し、都営交通沿線の魅力の P R や情報発信を行いました。

◆ サービス品質の持続的向上

(19) お客様の視点に立ったサービスの提供

- 職員の接客や施設の現状など、各サービスのレベルを調査・評価する「都営交通モニター制度」を活用し、サービス向上策を検討、実施しました。
- 各職場においてサービス推進活動に取り組むとともに、優れた取組を局全体で共有するため、「交通局サービス推進発表会」を開催し、組織全体のサービスレベル向上を図りました。

(20) 公共交通機関を気持ち良くご利用いただくための取組

- 駅や車内におけるマナー啓発や心のバリアフリー推進のため、ポスターや動画を作成し、都営地下鉄や都営バスの車内などでPRを行いました。



マナーポスター

3. 東京の発展への貢献

首都東京が抱える様々な課題に果敢に挑戦し、東京の発展に貢献する都営交通を実現するため、取組を進めました。

◆ まちづくりとの連携

(21) 浅草線のリニューアル・プロジェクト

- 令和2年に開業60周年を迎えた浅草線において、デザインを一新した新型車両を7編成導入するとともに、各駅の街並みにあわせて、駅改装に向けた設計を進めるなど、リニューアル・プロジェクトを推進しました。

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕 車両更新				
計画	7編成	7編成	5編成 (全27編成完了)	(11) - 〔1〕の再掲
実績	7編成	7編成		
〔2〕 駅改装				
計画	順次実施	→	→	
実績	順次実施	→		

(22) まちづくりと一体となった泉岳寺駅の大規模改良

- 品川駅周辺のまちづくりにあわせて市街地再開発事業と一体となって実施する泉岳寺駅の改良について、ホームの拡幅やコンコースの拡張、エレベーターの増設などに向け、準備工事を進めました。

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕 泉岳寺駅の大規模改良				
計画	順次工事実施	→	→	
実績	順次工事実施	→		

◆ 観光振興及び文化振興への貢献

(23) (24) 観光施策・文化施策との連携強化

- 「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の主要プログラムである「オペラ夏の祭典 2019-20 Japan⇔Tokyo⇔World」への協力として、大江戸線上野御徒町駅構内においてオペラのメロディを放送するなど、他の鉄道事業者等と連携して、広報活動に取り組みました。
- 局が所蔵する歴史的資料について、資料の整理・保存を進めるとともに、東京都交通局デジタルアーカイブに所蔵している写真を順次公開したほか、自治体主催のイベントへ資料の貸与を行うなど、広く活用を図りました。



歴史的資料（左：都営浅草線開業時の写真 右：円太郎バス）

◆ 持続可能な社会の実現への貢献

(25) 水素社会の実現への貢献

- 水素社会の実現に貢献するため、燃料電池バスの導入を進め、計 70 両に拡大しました。
- 水素エネルギーPR の一環として、東京都環境局が後援するイベントにおいて、燃料電池バスを運行しました。



燃料電池バス

(26) 省エネの推進と再生可能エネルギーの拡大

- CO₂排出量の削減に向けて、都営地下鉄において、駅等の照明器具の更新にあわせて、LED照明を設置しました。また、バス停留所において、当初計画を見直しつつ、LED照明の設置を進めました。
- 「省エネ・再エネ東京仕様」に基づき、局施設の整備にあわせて太陽光パネルの設置工事を進めました。
- 白丸調整池ダム監視所の移設にあわせ設置した再生可能エネルギーPR 施設は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、開設を延期しました。



バス停留所 LED 照明（有明一丁目）

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕バス停留所上屋へのLED照明の設置拡大				
計画	75棟	75棟	70棟	
実績	74棟	28棟		事業計画の見直しにより一部設置を見合わせ
〔2〕再生可能エネルギーPR施設の設置				
計画	監視所移設	PR施設開設	—	
実績	—	—		開設を延期

(27) 公共交通の利用促進等による環境負荷の低減

- 都営交通の環境負荷低減に対する取組や公共交通の環境優位性について、駅ポスターや地下鉄車内液晶モニターの活用等を通じて、積極的にPRを行いました。
- 都営バスの更新車両（ディーゼル車）については、最新の排出ガス規制に適合した低公害車両とし、窒素酸化物・粒子状物質の削減に貢献しました。

(28) うるおいのある都市空間の創出への貢献

- 東京さくらトラム（都電荒川線）の軌道内緑化について、定期的な維持管理を実施するとともに、技術面や費用面の課題について検討を進めました。

◆ 沿線地域の発展に貢献

(29) 沿線地域との連携

- 東京さくらトラム（都電荒川線）の魅力向上や沿線地域の活性化を図るため、沿線4区等と連携し、クイズラリーを実施するなど、積極的なPRを行いました。
- 日暮里・舎人ライナーの魅力向上と沿線地域の活性化に向けて、イベント等を実施しました。
- 交通安全意識の啓発を図るため、都営バス営業所において、地元の警察署と連携して、高齢者や小学生等を対象とした交通安全教室を開催しました。



都電クリスマス号

◆ 福祉施策への貢献

(30) 福祉インフラ整備への協力

- 都有地に関する問合せや活用の提案等を受け付ける「とうきょう保育ほうれんそう」に局資産の情報を提供するなど、福祉インフラ整備事業に協力しました。また、認可保育所等施設の整備を条件として事業者へ貸付けを開始した都営バス大塚支所跡地について、事業者の施設整備が計画的に進むよう、地元区等との調整を進めました。

(31) 子供の育成を支え見守る取組

- 小さなお子様連れのお客様が安心して気兼ねなく電車を利用できるよう、大江戸線で子育て応援スペースを設置した車両を7編成運行しました。

(32) ヘルプマークの普及への協力

- 都営地下鉄各駅や都営バス営業所などでヘルプマークを配布するとともに、車内やホームドア、エレベーターにステッカーを掲出するなどヘルプマークの普及に協力しました。



子育て応援スペース

◆ 都政情報等の発信への協力

(33) 都政情報等の発信への協力

- 地下鉄及びバス車内の液晶モニター等を活用し、都政情報等の情報発信に協力しました。
- 車両更新等にあわせて、地下鉄車内液晶モニターを12編成に設置しました。
- バス車内液晶モニターについては、令和元年度に予定していた200基を含め、500基の設置を完了しました。

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄車内液晶モニターの設置拡大				
計画	11編成設置	11編成設置	22編成設置	
実績	12編成設置	12編成設置		
〔2〕バス車内液晶モニターの設置拡大				
計画	200基設置	300基設置	—	
実績	—	500基設置		

4. 経営基盤の強化

事業環境の変化にも迅速かつ的確に対応するとともに、中長期的に安定した事業運営を行っていくため、経営基盤の強化に向けて取組を進めました。

◆ 関連事業の推進

(34) 資産の利活用

- 大門庁舎を事業区域に含む浜松町二丁目地区市街地再開発事業について、事業が着実かつ計画的に進捗するよう、工程等の協議を実施するとともに、一部の既存建物を解体し、新築工事に着手しました。
- 都営バス新宿支所を事業区域に含む西新宿三丁目西地区再開発事業について、再開発組合設立認可に向けて策定する事業計画等に関して協議を進めましたが、行政協議等に時間を要したため、設立認可は延期となりました。

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕 大門庁舎（浜松町）の利活用				
計画	権利変換計画認可 工事着手	→	→	令和7年度以降 利活用開始（予定）
実績	権利変換計画認可 工事着手	→		
〔2〕 都営バス新宿支所の利活用				
計画	—	再開発組合設立認可	権利変換計画認可	令和10年度以降 利活用開始（予定）
実績	—	—		

(35) 広告事業の積極的な展開

- 車両更新にあわせて、地下鉄車内の広告用デジタルサイネージの設置を拡大しました。
- 広告付バス停留所上屋について、民間事業者を活用した整備手法も取り入れながら、設置を拡大しました。
- 駅構内における広告用デジタルサイネージについて、新たに設置した三田線日比谷駅及び新宿線新宿駅で販売を開始するなど、広告事業を積極的に展開しました。



広告用デジタルサイネージ（左：日比谷駅 右：新宿駅）

◆ 安定的な人材の確保と育成

(36) 運輸系職員の人材確保

- 事業を支える有為な人材の安定的な確保のため、採用ホームページのリニューアル、バス乗務員採用専用のパンフレット・チラシ等の作成、SNS 広告の新規配信及び Web 広告の拡充を行うなど、積極的な PR を展開しました。
- バス乗務員の養成型選考について、受験者の負担を軽減するために教養試験を廃止したほか、バス乗務未経験者の基礎技量向上のため、民間教習所を活用した安全運転研修を実施するなど、育成方法の充実を図りました。



職員採用ホームページ

(37) プロフェッショナル職員の育成と技術の継承

- 保守職員の技術力の維持・向上を図るため、研修所における研修や、外部の技術専門機関等を活用した専門研修を実施するとともに、電気や保線等の保守職場において、模擬実習設備を活用した実践的な研修・訓練を行いました。
- バスについては、新規採用者向けに、運転技量に応じたきめ細かな養成研修を実施するとともに、運転訓練車を活用した研修や民間教習所を活用したバス乗務未経験者向けの安全運転研修を実施しました。

◆ 全ての職員が活躍できる職場環境づくり

(38) 職員のやる気と能力を引き出す環境づくり

- 人事考課制度を効果的に活用するとともに、職員表彰の実績を共有するなど職員のやる気を引き出す環境づくりに努めました。

(39) コンプライアンスの推進

- 職員一人ひとりが法令等を遵守し、高い規範意識を持ちながら業務を常に見つめ直し、信頼され支持される都営交通を実現できるよう、コンプライアンス研修の実施や、年2回のコンプライアンス推進運動において、自己点検や職場内ディスカッションを実施するなど、コンプライアンス意識の浸透・定着に努めました。

(40) ライフ・ワーク・バランスの推進

- 育児・介護と仕事の両立支援や超過勤務の縮減に向けた取組、フレックスタイム制の活用を推進し、職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図るとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点も踏まえ、テレワークやオフピーク通勤を積極的に推進しました。

(41) 職員の健康管理の推進

- 職員の心身の健康増進のため、相談体制の充実やメンタルヘルス対策の強化を図るとともに、SAS 検診や脳 MRI 健診等を計画的に実施しました。

(42) ダイバーシティの推進

- 女性職員がより一層活躍できるよう、仮泊室の整備を進め職場環境の充実を図るなど、誰もが働きやすい職場環境等の整備を進めました。

◆ 安定的な事業運営を支える執行体制の構築

(43) 組織の見直しと執行体制の強化

- 必要性や緊急性を見極めたうえで、業務の見直しを図るとともに、老朽化が進む局有施設の大規模改修や駅の大規模改良工事等に対応するため、執行体制を強化しました。

(44) 不断の業務改善への取組

- チャレンジ提案制度や技術発表会、若手職員のアイデアの積極的な活用等を通じ、自ら業務を改善する組織風土を醸成しました。
- 旅費や勤怠管理などの庶務事務や給与関係事務にかかる業務量の軽減とコスト縮減を図るため、庶務事務の電子化及び給与関係事務の外部委託について、給与明細の電子配信を試行で開始しました。

(45) 体系的なリスクマネジメントの推進

- 「リスクマネジメント委員会」において事業運営上発生する様々なリスクについての取組計画を策定し、定期的に取り組状況のチェックを行うなど、体系的なリスクマネジメントを推進しました。

(46) グループ経営の推進

- 局と関連団体とがグループ総体として最大の経営効果を発揮できるよう、団体からの研修受入など人材交流を進めるとともに、経営計画や人員計画等について事業の方向性を共有するなど、連携の強化を図りました。

5. 東京 2020 大会の成功に向けた取組

大会開催時に、安全で安定的な輸送と快適で提供利用しやすいサービスを提供するため、関係機関と連携しながら取組を進めました。

◆ 東京 2020 大会に向けた都営地下鉄の主な取組

■ ホーム事故「0」を目指した取組

ホーム上の安全対策の強化に向け、令和5年度までに全ての交通局管理駅へのホームドア整備を完了するため、準備工事等を進めました。また、テロ対策への対応として、地下鉄車内防犯カメラの設置を進めるとともに、AI等の新技術を活用し、カメラ映像の解析により不審物の置き去り等を検知するシステムの導入に向けて、現地調査等を進めました。

→2、3ページ再掲

■ 誰もが利用しやすい環境の整備

乗換駅等でエレベーター整備を進めるとともに、競技会場最寄駅の案内サインの改修を完了しました。

→6、9ページ再掲

■ 地下鉄の輸送対応

競技日程に応じた輸送需要や東京2020大会の延期を踏まえ、組織委員会や他の鉄道事業者と協議・調整を行うとともに、組織委員会やオリンピック・パラリンピック準備局が主催する各種会議に参画し、大会時における輸送体制や運営方法の確認・検証を行いました。

■ 気運醸成に向けた取組

車両ステッカーやホームドアステッカーの掲示を引き続き実施しました。

◆ 東京 2020 大会に向けた都営バスの主な取組

■ 水素社会の実現への貢献

水素社会の実現に貢献するため、燃料電池バスの導入を進め、計70両に拡大しました。→13ページ再掲

■ 大会期間中の特別輸送

駅から離れた会場へのシャトルバスの運行について関係機関と調整したほか、大会期間中の交通規制に対応するため、一般路線の運行ルートやダイヤについても検討しました。

■ 気運醸成に向けた取組

バス車内液晶モニターを活用したPR動画放映等を実施しました。